様式８
「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

2020東京に向けた水防災啓発プロジェクト
～多摩川から世界へ

助成番号：2021 - 6322-013

特定非営利活動法人水・防災機構
理事長　鈴木　眞智子

2021 年度

１．事業概要

私たちは、広く一般市民を対象として、水循環や防災等に関する調査研究を行うとともに、地域や学校での講演会や見学会の開催による防災・環境教育事業、水循環、河川・流域、防災に係る環境と文化の保全に関する普及・啓発事業、及び河川・流域に係る地域活性化を図る事業などを行い、地域の生活環境と自然環境の改善に努めることで、人と自然の調和がとれた環境社会づくりに寄与していくために法人を設立いたしました。そして、地域住民が防災に関する理解を深め、平常時は川にふれあい、洪水時には的確に避難行動をとっていただくために私たちの活動が貢献します。また、小学生の時期より危険を理解し川に親しむ知見を与えることで水防災意識社会の構築に貢献します。

こうした中、本事業は、第一線で活躍する気象キャスターや大学教員を講師として招き、気象や防災・環境に関する様々なテーマで親子向けにクイズや映像、大小様々な実験器具・体験を通し、分かりやすく楽しい内容で伝えることにより、災害の恐ろしさを教え災害に備えることを学び体験し考える場を作ります。また、大人向けの活動として、こうした講師陣による講演、パネルディスカッションを通じ、水防災意識社会を考えるシンポジウムの開催を企画します。さらに、今後の防災意識を高めるために、川を活かして流域市民が一体となって自助互助の防災体制を確立すべく、その実施に向けた検討及び、具体的な取り組みを行っていくことを目指しました。

事業１年目の活動は、これまで実施してきた気象防災教室、水防災セミナー等での成果、課題の洗い出しを行いました。11 月 18 日には、水防災意識社会の構築に向けた講習会「多摩川水防災セミナー」と水陸両用車の運行に向けた検討会「多摩川水上交通再生と危機管理強化の勉強会」を川崎市にて開催しました。開催にあたっては、河川管理者である京浜河川事務所、地元市の川崎市、他のＮＰＯの後援を頂きました。また、2 月 17 日には、小学生を対象とした水防災学習会の開催を河川管理者、地元市、他のＮＰＯと連携して実施しました。

事業２年目の活動は、前年度に確立した水防災教育パッケージの更なる改良・検討を進め、防災教育を実施すること、検討を進めた水陸両用車の試験運行を実施し、実際の運行による課題、定期運行に向けた関係機関との調整を行うことを目標に事業を進めました。具体には、10 月 28 日（日）には、川崎市在住の子どもたちを対象とした水防災に関わる学習会の開催を行いました。また、8 月 7 日（火）及び 11 月 2 日（金）の 2 回、水陸両用車の試験運行についての検討、実地視察を行いました。この結果、水陸両用車の浸水坂路など課題が多々見え、また、その解決には時間を有することが明らかとなったため、当面の取り組みとして観光や水辺への親しみに寄与する「渡し」の復活に向けた検討を進めることとし、2 月 3 日（日）に「多摩川の渡し復活キックオフ勉強会」を開催しました。

事業３年目の活動は、確立した水防災教育パッケージの更なる改良・検討を進め、実践的に防災教育の実施に取り組みました。また、前年度の検討結果を踏まえ、水陸両用車の運行を目指す前に、当面の取り組みとして「渡し」の復活に向けた検討を進めることとしました。一方、この年 10 月の東日本台風により多摩川も大きな被害が発生し、当面、水陸両用車や渡しの着岸等が困難な状況が続くため、フィールド活動に換え、台風被害から顕著になった課題等について地域住民に周知する活動を行いました。7 月 27 日（土）には、川崎市在住の子どもたちを対象とした水防災に関わる学習会「多摩川めざせ！防災とお天気博士！」を開催しました。また、8 月 4 日（日）には、「多摩川カヌー教室」の支援を行うとともに、事前にカヌー利用に関する会員研修会を行いました。さらに、11 月 23 日（祝）には、「小向の渡し勉強会～多摩川の渡しプロジェクト part. 2」を開催し、小向の渡しの復活に向けた勉強会を地域住民とともに実施しました。このほか、勉強会に関連した事前学習会や 10 月の台風 19 号による多摩川の被害状況について会員による調査を実施しました。これらの知見を踏まえ、2 月 15 日（土）に学習会「多摩川勉強会～台風 19 号を振り返り」を開催しました。なお、実施予定としていた四国地方への先進事例調査は、参加予定会員の台風 19 号被害への対応が多忙となったために中止しました。

事業４年目の活動は、本来であれば、前年度までに確立した水防災教育パッケージの更なる改良・検討を進め、実践的に防災教育の実施に取り組むとともに、検討を進めてきた水陸両用車の試験運行に取り組むこととしていました。しかしながら、前年発生した東日本台風の影響等で多摩川も大きな被害が発生し、当

面、水陸両用車の着岸等が困難な状況が続くことを河川管理者からも報告を受けたため、前年度後半より「渡し」の復活に向けた取り組みを行うこととしておりました。これについても、当年度のコロナ禍、特に年度前半は緊急事態等の状況下、十分な取り組みを行うことができませんでした。そのような中、7 月 22 日（水）にはオフィス気象キャスター（株）の協力の下、子どもむけのオンライン教材「楽しく学ぼう！お天気とぼうさい」を制作し掲載を行いました。また、「親子で学ぶ　多摩川お天気と防災」を 10 月 24 日（土）に開催しました。開催に当たっては、コロナ対策を十分に行いました。さらに、先進事例調査の成果を踏まえ、11 月 21 日（土）に「みんなでつくるフタコスタイル避難計画「マイ・タイムライン」～自分の逃げ方を考えよう～」講習会を世田谷区二子玉川にて地元有志と共催の形で開催しました。参加者は自身の自宅のハザードを理解し、どのように行動していくべきかをマイ・タイムラインを実際に作ってみることで学ぶことができました。また、会員のスキルアップを目指し、9 月 12 日（土）にオンライン研修会を実施しました。

採択最終年となる事業５年目の活動は、これまでの５年間を総括するとともに、次の５年に向けての基盤づくりに主眼を置き、当初計画でできたこと、できなかったことの自己評価の結果、改めて防災教室の内容充実、新たな取り組みに向けた先進事例調査、４年目に実施した「マイ・タイムライン」講習会の改善を行いました。具体には、5 月 22 日（土）には川崎市立下作延小学校、7 月 31 日（土）には川崎市立三田子ども文化センターにて気象防災教室を開催しました。下作延小学校の事業は地元の神奈川新聞にも記事が掲載されました。また、6 月 26 日（土）には先進事例調査として、東日本大震災からの復興をとげた宮城県石巻市等の現地視察を行いました。さらに、10 月 24 日（日）には、前年度同様、（一財）二子玉川エリアマネジメンツとの共催により「親子講座　ぼうさいマイ・タイムライン」として大人向けのマイ・タイムライン作成講座、子供向けの気象災害について楽しみながら学習する観天望気の書の作成講座を開催しました（緊急事態宣言の発令により 8 月 21 日より開催日変更）。

５年間の活動を通して、水防災意識社会の再構築に向けた私たちの活動の方向性を確立することができました。今後も地球温暖化により激甚化する気象災害の頻発化に向けて流域治水の推進に貢献できるよう私たちの活動が少しでも地域に貢献できるよう取り組みを進めてまいります。

２．活動状況

５年間の本事業にかかる活動は以下の通りです。

（１年目）

平成２９年　７月２３日（日）　しまんとわくわくお天気・防災教室後援（企画支援）
平成２９年　８月　８日（火）　水陸両用車の運行に向けた事前勉強会を開催
平成２９年　９月　９日（土）　先進事例調査（青森西目屋村長に対する水陸両用車の運行に関するヒアリング）
平成２９年１１月１８日（土）　多摩川水上交通再生と危機管理強化の勉強会を開催
平成２９年１１月１８日（土）　多摩川水防災セミナーを開催
平成３０年　２月１７日（土）　小学生を対象の水防災勉強会の企画運営

（２年目）

平成３０年　７月２８日（日）　徳島わくわくお天気・防災教室後援（企画支援）
平成３０年　８月　７日（火）　水陸両用車の運行に向けた内部検討会を開催
平成３０年１０月２８日（日）　多摩川めざせ！防災とお天気博士！開催
平成３０年１１月　２日（金）　多摩川クルーズ現地調査を実施
平成３１年　２月　３日（日）　多摩川の渡し復活・キックオフ勉強会開催

（３年目）

令和　１年　７月２７日（土）　多摩川めざせ！防災とお天気博士！開催
令和　１年　８月　４日（日）　多摩川カヌー教室支援とカヌー研修会の実施
令和　１年　９月１１日（水）　小向渡し跡確認調査及び事前勉強会の開催

令和　１年１０月１３日（日）　台風 19 号多摩川被災状況踏査（第１回）
令和　１年１１月　７日（木）　台風 19 号多摩川被災状況踏査（第２回）
令和　１年１１月２３日（土）　小向の渡し勉強会～多摩川の渡しプロジェクト part.2 を開催
令和　２年　２月１５日（土）　学習会「多摩川学習会～台風 19 号を振り返り」を開催

（４年目）
令和　２年　７月２２日（水）　「楽しく学ぼう！　お天気とぼうさい」の WEB 公開
令和　２年　９月　５日（土）　先進事例調査（「マイ・タイムライン」講習会視察）
令和　２年　９月１２日（土）　オンライン研修会（内部研修）の実施
令和　２年１０月２４日（土）　「親子で学ぶ多摩川　お天気と防災」の開催
令和　２年１１月２１日（日）　「みんなでつくるフタコスタイル避難計画「マイ・タイムライン」～自分の逃げ方を考えよう～」講習会の開催

（５年目）
令和　３年　５月２２日（土）　防災講習会～川崎市立下作延小学校（課外事業支援）
令和　３年　６月２６日（土）　先進事例調査（「川とまちづくりが一体となった活性化の取り組み」視察）
令和　３年　７月３１日（日）　多摩川めざせ！防災とお天気博士！開催
令和　３年１０月２４日（日）　「親子こうざ　ぼうさいマイ・タイムライン」講習会の開催
（８月２１日より開催日変更）

３．具体の活動状況

３．１　一年目（平成２９年度）の活動

３．１．１　しまんとわくわくお天気・防災教室後援（企画支援）（2017 年 7 月 23 日）

本活動は、高知県四万十市民を対象に地域住民とその子供たちに水防災意識の向上と知識の普及啓発を行うために実施された「しまんとわくわくお天気・防災教室」の実行委員会の一員として教室の企画・運営を担当しました。気象キャスターによる気象や防災・環境に関する様々なテーマでの親子向けクイズや映像、大小様々な実験器具・体験を通し、分かりやすく楽しい内容で伝えることにより、災害の恐ろしさを教え災害に備えることを学び体験し考える機会をつくりました。

３．１．２　水陸両用車の運行に向けた事前勉強会（2017 年 8 月 8 日）

本事業の１年目の柱である水陸両用車の運行に向けた検討会の開催に当たり、水陸両用車による防災力強化の課題の洗い出しを法人会員により行いました。その結果、多摩川で水陸両用車を運行する際の大きな課題となる進入路の確保について、今後河川管理者も含めて検討を行うことを確認しました。また、平常時の観光等への活用方策についても検討が必要であるとの認識をもちました。このため、今年から水陸両用車の運行を開始した津軽湖の西目屋村での取り組みについて、ヒアリング等を行うことを決めました。

３．１．３　先進事例調査（青森西目屋村長に対する水陸両用車運行のヒアリング）（2017 年 9 月 9 日）

本年から水陸両用車の運行を開始した青森県西目屋村・関村長（当時）が「東成瀬源流シンポジウム」に参加するのに合わせて、取り組みに関するヒアリングを行いました。その結果、ダム湖の水位が低下した今夏には運航停止を余儀なくされ、多くの予約をキャンセルせざるを得なくなったこと、そのため進入路の延長をダム管理者と今後協議していくこと、水陸両用車が村の観光資源となっていることなどを伺いました。なお、関村長は「東成瀬源流シンポジウム」のパネリストとして参加しており、先進事例調査にあわせてシンポジウムに参加しました。

３．１．４　多摩川水上交通再生と危機管理強化の勉強会（2017 年 11 月 18 日）

本勉強会は、災害時の人的物的輸送を効率的に行い平常時には観光に資する水陸両用車の多摩川流域での運行実現に向けて、地域住民と検討を行うことを目的に、大師河原干潟館会議室にて 11 月 18 日（土）午前 10 時～12 時に開催しました。講師は、当法人の副理事長の細見寛が担当し、「多摩川と水上交通の必要性について」と題して話題提供を行った後、参加者との意見交換を行いました。その結果、平常時の運行ルートの設定が参加者の興味も引くところであり、進入路の検討と併せて、まずは試験運行（平常時）のルート検討を今後行っていくこととしました。参加者 30 名（うち、スタッフ 5 名）でした。定員を 30 名としていたので、若干定員には足りませんでした。

３．１．５　多摩川水防災セミナー（2017 年 11 月 18 日）

本セミナーは、平成 27 年の関東・東北豪雨により鬼怒川の堤防破堤が発生し、国土交通省から「水防災意識社会再構築ビジョン」が発表されたことを受け、多摩川流域でのゲリラ豪雨による地域の浸水被害の発生やポンプの増設をはじめとしたハード対策に加え、住民が水害リスクに関する知識と心構えをもつことが求められているため、多摩川流域の住民を対象に昨今の防災に関わる話題と、気象も含めた防災知識について話題提供を行い、水防災意識社会の構築を図るために、11 月 18 日（土）に大師河原干潟館会議室にて開催しました。定員を 50 名としておりましたので、参加者 42 名（うち、スタッフ 6 名）ということで、定員には足りませんでした。

１つ目の話題提供は、河川管理者である京浜河川事務所の柳沢氏により、京浜河川事務所が取り組むハード・ソフト対策の紹介、及び川崎市担当者からのハザードマップの紹介がありました。

２つ目は、当法人副理事長の細見より、多摩川の地形を踏まえた多摩川流域の特性や歴史についての話題提供を行いました。

基調講演は、地元テレビ神奈川の気象キャスター・くぼてんき氏から気象情報の活用について、特にマイ・タイムラインについて新たな知見も交えて話題提供を頂きました。

３．１．６　小学生を対象の水防災勉強会の企画運営（2018 年 2 月 17 日）

国土交通省京浜河川事務所、地元市の川崎市、多摩川流域で活動する他のＮＰＯとの連携で開催された「第 5 回まるごと多摩川まつり（第 50 回多摩川流域セミナー）の一環として、２月１７日（土）に多摩川流域に住む小学生を対象とした水防災、気象災害に対する備えを学ぶ学習会「第 50 回多摩川流域セミナー（第１部「お天気お兄さん・お姉さんの防災教室」）」の企画運営を行いました（於：大師河原干潟館会議室）。講師には、地元でおなじみのくぼてんきさん、池田未来さんをお招きし、水防災・気象災害についての講義と実験を行いました。

３．２　二年目（平成３０年度）の活動

３．２．１　徳島わくわくお天気・防災教室後援（企画支援）（2018 年 7 月 28 日）

本活動は、徳島県吉野川市民を対象に、地域住民とその子供たちに水防災意識の向上と知識の普及啓発を行うために実施された「徳島わくわくお天気・防災教室」の実行委員会の一員として教室の企画・運営を担当しました。気象キャスターによる気象や防災・環境に関する様々なテーマでの親子向けクイズや映像、大小様々な実験器具・体験を通し、分かりやすく楽しい内容で伝えることにより、災害の恐ろしさを教え災害に備えることを学び体験し考える機会をつくりました。

３．２．２　水陸両用車の運行に向けた内部検討会（2018 年 8 月 7 日）

水陸両用車の試験運行に向けて具体的な課題を検討するため、水陸両用車の運行になる課題抽出を法人会員により行いました。昨年の検討でも課題とした多摩川で水陸両用車の水面入路となるスロープの設置については、具体的に河川管理者である京浜河川事務所との協議が必要であることを確認しました。また、試験運行に向けて、現在水陸両用車を保有する各機関に車両レンタルの打診を行うべく該当企業の洗い出しを行いました。

３．２．３　多摩川めざせ！防災とお天気博士！の開催（2018 年 10 月 28 日）

本活動は、川崎市との協働により、子ども文化センターにおいて当法人が主体となり、多摩川流域の子どもたちに水防災意識の啓発を行うために企画したお天気防災教室です。ＮＨＫニュースで活躍する気象キャスター（関口奈美さん）と当ＮＰＯの副理事長で東京大学准教授知花を講師とし、子どもたちが砂遊び感覚で洪水のメカニズムを考え、また気象防災に関するクイズを関口氏が行い、より一層の水防災啓発を行いました。知花副理事長の作成した多摩川の歴史と水害に関する講義は、保護者にも評判よく自分が住んでいる地域の昔の姿を知ることができたというコメントも頂いております。

３．２．４　多摩川クルーズ現地調査の実施（2018 年 11 月 2 日）

本調査は、災害時の人的物的輸送を効率的に行い平常時には観光に資する水陸両用車の多摩川流域での運行実現に向けて現地踏査を 11 月 2 日（金）の午後に実施しました。当会会員、川崎市、河川管理者の京浜河川事務所および学識者が参加しました。水陸両用車の浸入坂路の設置等の課題について現地にて確認を行いました。

３．２．５　多摩川の渡し復活キックオフ勉強会の開催（2019 年 2 月 3 日）

３．２．４の調査結果等を踏まえ、水陸両用車の浸水坂路など課題が多々見え、また、その解決には時間を有することが明らかとなったため、当面の取り組みとして観光や水辺への親しみに寄与する「渡し」の復活に向けた検討を進めることとしました。このため、そのキックオフとして、平成 31 年 2 月 3 日（日）に水・防災機構の主催により川崎市ミューザ川崎内研修室にて「多摩川の渡し復活キックオフ勉強会」を開催しました。約 30 名の川崎をはじめ多摩川流域の皆さんが参加しました。当日は、多摩川を管理する国土交通省京浜河川事務所総括地域防災調整官の国頭さんから多摩川の護岸や船着き場についての講義がありました。続いて、当機構の理事長・鈴木から自身が関わった丸子の渡しについてのご紹介を行いました。休憩をはさみ、参加者全員で意見交換を行いました。今後どう継続・発展していくか、渡す場所をどう増やすか、どこに増やすかなどの意見や、地域コミュニティおよび市民・自治体・民間事業者の連携強化、川を相手にした防災視点の流布などと繋がっていくことが求められるといった意見を共有しました。

３．３　三年目（令和元年度）の活動

３．３．１　「多摩川めざせ！防災とお天気博士！」の開催（2019 年 7 月 27 日）

本活動は、河川管理者の国土交通省京浜河川事務所、川崎市の協力を頂き、新丸子こども文化センター、特定非営利活動法人気象キャスターネットワークなどとの協働により、川崎市新丸子こども文化センターにおいて当法人が主体となり、多摩川流域の子どもたちに水防災意識の啓発を行うために企画した教室です。講師には、フジテレビ「直撃 LIVE グッディ！」お天気コーナー担当し出産から復帰した寺川奈津美キャスターと当機構の副理事長で東京大学准教授の知花先生が講師を担当しました。子どもたちが砂遊び感覚で洪水のメカニズムを考え、また気象防災に関するクイズを寺川氏が行いました。また、多摩川の洪水のお話を知花先生から行い、参加したこどもたちは夏休みの自由研究課題になる雲の図鑑づくりと洪水の仕組みを解明する実験をチームに分かれて実施しました。参加した皆さんだけでなく、保護者の皆さんも一同楽しく学ぶことができました。アンケート結果でも楽しく学習が出来たという回答がほとんどでしたし、保護者から

も多摩川の水害リスクについて学ぶことが出来たという回答もありました。本年 10 月の台風第 19 号で多摩川沿川の川崎市武蔵小杉地区で内水による大きな水害が発生しましたが、改めて事前に備える知識を親子にお伝えできたものと考えております。（会員 6 名、参加者 43 名（保護者含む））

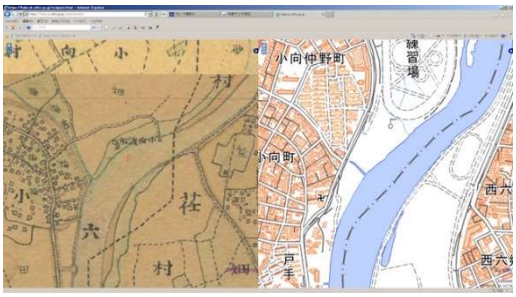
３．３．２　多摩川カヌー教室支援とカヌー研修会の実施（2019 年 8 月 4 日）

水渡し体験を行うことを視野に、とどろき水辺他が主催する「多摩川カヌー教室」のサポートを行うとともに、会員のカヌーの漕ぎ方を習得するための研修会を行いました。当日は、約 90 名の参加者があり、当法人会員も主催者とともに、こどもたちのカヌーの乗り降り、漕ぎ方の練習のサポートを行いました。また、万一の事故に備えた救急応急手当対応教室も開催され、参加した会員もこどもたちに混じってバンダナや三角巾をつかった応急処置の対処法を学習しました。

多摩川カヌー教室終了後は、当法人会員のカヌー研修を行いました。夕方近くまでの訓練の結果、11 月に予定しているカヌー体験の対応にめどがつきました。（会員 5 名、参加者 92 名）

３．３．３　小向渡し跡確認調査及び事前勉強会の開催（2019 年 9 月 11 日）

本調査では、11 月に実施する小向の渡し勉強会の開催に当たっての会員による現地踏査と事前勉強会を実施しました。地図の収集及びかつての船着き場を確認するとともに、実際に渡し体験を行う場合の課題について確認を行いました。（会員 3 名）



３．３．４　台風 19 号多摩川被災状況踏査（第１回）（2019 年 10 月 13 日）

本踏査は、甚大な被害が東日本を中心に発生した台風 19 号による多摩川の被災状況を確認のための踏査を行いました。当日のテレビニュース等で近隣の川崎市武蔵小杉地区や世田谷区二子多摩川地区の浸水が報道されていたところでしたが、幸い当法人の事務所周辺での浸水被害は発生しませんでした。当日は、河道内の確認は出来ず、改めて、カヌー体験会の開催可否を含めて判断するための踏査を行うこととしました。（会員２名）

３．３．５　台風 19 号多摩川被災状況踏査（第２回）（2019 年 11 月 7 日）

本踏査は、台風 19 号の被災直後の踏査に続き、主に 11 月開催予定の小向の渡し勉強会で実施予定のカヌー体験地域での被災状況の確認を行いました。今回の踏査により、カヌーを利用した渡し体験を行うのは安全上の懸念があることが判明したため、当日の勉強会では、学習会のみの実施とすることを決定しました。なお、踏査は国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の協力の下実施しました。（会員３名）

３．３．６　小向の渡し勉強会～多摩川の渡しプロジェクト part.2 を開催（2019 年 11 月 23 日）

本勉強会は、11 月 23 日（祝）に川崎市幸市民館におきまして当法人の主催事業として開催しました。かつて多摩川の渡河のために使われていた「渡し」を観光に生かしていくための取り組みに向け、平成 31 年 2 月に開催した「六郷の渡し」を題材としてキックオフ勉強会に続き開催したものです。予定では、小向の渡し場跡から実際にカヌーを利用した渡し体験を実施することとしていましたが、台風 19 号による多摩川の河道状況を鑑み中止することとし、学習会のみの実施となりました。　当日は、当法人の理事長・鈴木より今回の勉強会の開催趣旨のほか多摩川の渡し場の歴史や自身が関わった丸子の渡しについて紹介したのち、多摩川を管理する国土交通省京浜河川事務所総括地域防災調整官の中村さんから今回の台風 19 号によ

る多摩川の被災状況の報告や多摩川の船着き場の整備に関する話題提供を行っていただきました。質疑応答では、台風 19 号の詳細な被害状況を知りたいという声が多く聞かれ、参加者の水防への高い意識がうかがえ、さらに中村さんからは、河川情報の取集方法や日頃の心構えについて補足していただきました。また、参加者全員で行った意見交換では、船着き場の場所や河川の利用方法についての具体的な話題提供がなされました。今回初めて参加された方も多かったのですが、参加者からは継続した勉強会や渡し場体験の開催要望もいただき、来年度も今回の意見を踏まえて取り組みを進めていきたいと考えております。（会員 5 名、参加者 23 名）

３．３．７　学習会「多摩川学習会～台風 19 号を振り返る」開催（2020 年 2 月 15 日）

本学習会は、令和 2 年 2 月 15 日（土）川崎市産業振興会館第 3 研修室において開催しました。令和 2 年 10 月の東日本台風号を切り口に、今後の水害に対する備えについてマイ・タイムラインの紹介なども交えながら水災害意識の醸成を目的として多摩川の河川管理者である京浜河川事務所の太田副所長、気象予報士・気象キャスターの水越祐一氏、当機構の副理事長で東京大学准教授の知花先生を講師として川崎市、世田谷区などの流域の住民を対象とした学習会としました。参加者からは、必要な治水対策を進めて欲しいといった趣旨のご意見や、住民が正しい情報をもとに的確に避難行動をとり被害を最小限にしていくため、更に防災情報発信の充実を図るとともに、今回の様な学習の機会を増やして頂きたいなどの意見がありました。閉会となりました。（会員 7 名、参加者 39 名）

３．４　四年目（令和２年度）の活動

３．４．１　「楽しく学ぼう！　お天気とぼうさい」の WEB 公開（2020 年 7 月 22 日）

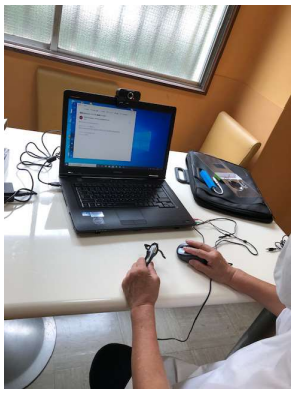
本活動は、コロナ禍の影響が続く中、今年度は家庭学習が続く子どもたちの夏休みの学ぶ教材を作成することを目的に、オフィス気象キャスター（株）の協力の下、子どもむけのオンライン教材「楽しく学ぼう！お天気とぼうさい」を制作し掲載を行いました。内容は、主に子ども向けの１０分程度の教材となっており、途中にはクイズ形式の内容を取り入れるなど１０分でも飽きさせない内容とすることができました。ひき続き、流域の学校だけでなく、河川基金のＨＰや当法人のＨＰ、オフィス気象キャスター（株）のＨＰなどを通じて、配信の広報に努めてまいります。（会員 4 名、視聴実績多数）

３．４．２　「マイ・タイムライン」講習会視察（先進事例調査）（2020 年 9 月 5 日）

本活動は、昨年度から全国的に取り組みが進んでいる「マイ・タイムライン」の作成を私たちがフィールドとしている多摩川流域の住民に浸透させるための取り組みを行うためのノウハウを取得するため、今年度国土交通省が主催で実施する講座を紹介いただき、実地でその進行や講義の内容把握するため、会員３名が東松島市矢本西市民センターで開催された講習会の視察を行いました。当日は、前ＮＨＫ仙台で気象キャスターをしていた吉田晴香さんが講師となり、市内の防災リーダーに対するマイ・タイムラインの作成を指導するものでした。前半は昨今の気象災害の概要の紹介や、ハザードマップの見方の解説など、住民がすぐに役立つノウハウの講義がありました。当日は台風１０号が九州に接近しているところであり、参加した市民の皆さんも吉田講師の話に真剣に耳を傾けていました。（会員 4 名参加）

３．４．３　オンライン研修会（内部研修）の実施（2020 年 9 月 12 日）

現下のコロナ禍を受け、Web による会議やイベントの開催が増えつつある中、私たちの会員間でオンライン対応のスキルアップを図るため、私たちの事務所の環境整備とともに、会員の IT 対応の講習会を実施しました。今回の研修を通じて、最低限のテレビ会議への参加する各種操作方法の理解、主催者の選定により複数のアプリ利用が想定されるため、ZOOM、TEAMS,LINE、SKYPE といった利用が進むアプリの使い方を学習し、さらに、パソコン、スマートフォンなど機器による web 会議システム参加の相違があるため、こうした機器の違いを踏まえた会議への参加方法などを参加した会員が理解できました。引き続き、当日不参加であった会員のスキルアップについても対応をしてまいります。（会員 7 名参加）



３．４．４　「親子で学ぶ多摩川　お天気と防災」の開催（2020 年 10 月 24 日）

本活動は、河川管理者の国土交通省京浜河川事務所、川崎市の協力を頂き、新丸子こども文化センター、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク、オフィス気象キャスター（株）などとの協働により、川崎市新丸子こども文化センターにおいて当法人が主体となり、多摩川流域の子どもたちに水防災意識の啓発を行うために企画した教室です。例年実施してまいりましたが、今年度はこれまでの反省点と良かった点を顧みることとし、初めて「親子」の参加を前提に親と子で共に考えて頂くような内容としました。また、参加する子どもたち保護者に万一の事態が発生させることはあってはならないため、検温やマスク着用の徹底等を行い、感染症対策を万全に行うとともに定員も例年の 50 名から親子 16 人（８組）まで絞ることによって、子どもたちだけでなく保護者の皆様にも安心して講座に参加して頂ける環境を作りました（当日の参加は 6 組 12 人）。講師は、一昨年担当頂いた元ＮＨＫ気象キャスターの関口奈美気象予報士と当機構の副理事長で東京大学准教授の知花先生が勤めました。子どもたちが砂遊び感覚で洪水のメカニズムを考え、また気象防災に関するクイズを関口氏が行いました。また、多摩川の洪水のお話を知花先生から行い、参加したこどもたちは雲の図鑑づくりと洪水の仕組みを解明する実験をチームに分かれて実施しました。特に、参加者を少なくしたことで多くの子どもたちに学ぶ機会を与えられないデメリットに対し、少人数だからこそ講師

とのコミュニケーションもしっかりと取れることになり、親子で皆さん楽しくしっかり学ぶことができました。アンケート結果でも楽しく学習が出来たという回答がほとんどでしたし、保護者からも多摩川の水害リスクについて学ぶことが出来たという回答もありました。コロナ禍でなかなか学ぶ機会がない子どもたちは貴重な機会が得られたものと考えております。（会員 8 名、参加者 12 名（保護者含む））

３．４．５　「みんなでつくるフタコスタイル避難計画「マイ・タイムライン」～自分の逃げ方を考えよう～」講習会の開催（2020 年 11 月 21 日）

9 月に宮城県東松島市で開催された講習会での先進事例調査の成果を踏まえ、11 月 21 日（土）に「みんなでつくるフタコスタイル避難計画「マイ・タイムライン」～自分の逃げ方を考えよう～」講習会を世田谷区二子玉川にて二子玉川まちメディア futakoloco 編集部（一般社団法人二子玉川エリアマネジメンツ）と共催の形で開催しました。本講習会についても、参加者から感染者が発生しないよう検温やマスク着用の徹底等を行い、感染症対策を万全に行うとともに定員も東松島の 50 名とすることはやめ、20 名まで絞ることによって参加者が安心して講座に参加して頂ける環境を作りました。講座は、地元の玉川町会とも協働して地域の住民の皆様に案内を行いました。講座の講師には、これまで各地でマイ・タイムライン講習会の監修や講師育成に携わってきた気象予報士の岩谷忠幸さんにお願いするとともに、国土交通省主催のマイ・タイムライン講習会を受託している（一財）河川情報センターの全国各地で講習の講師を担当している鮎川さんおよび多摩川に精通した当会の会員 4 名のサポートにより参加者の理解を深めるための体制としました。

講義は、風水害や土砂災害など、それぞれの状況に応じて自分と家族や大切な人の身を守る避難計画を策定することを目指し、多摩川の水害時に特化したものとして、3 部構成としています。まずは、気象防災の専門家（岩谷忠幸さん（気象予報士/お天気キャスター））による最近の災害や気象の説明の講義を行い、次に当機構の事務局からスマートフォン等の災害情報の取り方・見方をレクチャーを講義しました。休憩をはさみ、世田谷区が策定したハザードマップなどを用いて二子玉川の街の特徴を踏まえ、自分自身との家族構成や生活環境にあわせたオリジナルの「マイ・タイムライン」をつくるワークショップ形式の講座にしました。膨大な情報になりがちな防災知識を、わかりやすく実用的に。いざという時の指針となる、避難計画の作成を最終的な目的とする、実践的な講座でした。定員 20 人という少数での開催ではありましたが、その分じっくり丁寧にお伝えできたと考えております。（会員 4 名、参加者 22 名、他講師等 3 名）

３．５　五年目（令和３年度）の活動

３．５．１　防災講習会～川崎市立下作延小学校（課外事業支援）の開催（2021 年 5 月 22 日）

川崎市立下作延小学校で実施されている課外授業「かがやき交流会」の一環として令和 3 年 5 月 22 日（土）に「下作延防災まもり隊」と題する授業を当 NPO 法人とどろき水辺、（株）オフィス気象キャスターなどと協働で 4 年生を対象とした授業を実施しました。

防災の取り組みについて調べたり、災害について学んだりする活動を通して自分自身も地域の一員としてできることを考え行動することを目標とし、多摩川の洪水や堤防についての授業を当機構副理事長の知花東京大学工学系研究科准教授が行いました。また、気象災害について楽しみながら学習する「気象かるた」と観天望気の書を作る授業を気象予報士の宇野日和さんらが行いました。

当日は、保護者参観の形式であったため、保護者もお子さんが泥遊びの中で水や土の性質そのものに触れ学んでいる姿をみて笑顔が絶えませんでした。この授業では、砂粒の大きさが異なる二種類の水路を経験することにより，粒の大きさに伴う性質の違いを学習します。そして、生徒の皆さんは、川の侵食・運搬・堆積について学んだことと思います。今回の授業で洪水時の川を治めるのがいかに難しいか，住まい方や避難がいかに重要かなど防災学習に貢献することができました。（会員 8 名、参加者川崎市立下作延小学校 4 年生児童 88 名及び参観参加保護者）

３．４．２　先進事例調査（「川とまちづくりが一体となった活性化の取り組み」視察）（2021 年 6 月 26-27 日）

本活動は、助成期間終了後の活動として検討を進めている「川を活かしたまちづくりへの貢献」を実施していくことを念頭に、東日本大震災からの復興過程で地域と連携したかわまちづくりを進める旧北上川沿川の石巻市、名取川沿川の閖上地区での地域振興の状況について会員 5 名（東北地区会員 2 名を含む）により視察を行いました。石巻では、国土交通省北上川下流河川事務所の石田事務所長より河川整備の概要やかわまちづくりの取り組みについてご説明を伺うとともに、東日本大震災からの復興の状況について把握することができました。（会員 5 名参加）

３．４．３　多摩川めざせ！防災とお天気博士！開催（2021 年 7 月 31 日）

本活動は、助成期間を通じて継続的に実施してきましたが、2021 年度は三田こども文化センターにおきまして、オフィス気象キャスター（株）などとの協働により開催いたしました。東京都に緊急事態宣言が発令され、神奈川県においてもまんえん防止措置が翌々日より発令される中であったことから参加者数も限定して実施しました。昨年度の講座で好評であったことから、今年度も「親子」の参加を前提に親と子で共に、観天望気の書の作成は保護者の方にも参加いただくこととしました。コロナ対策として、参加する子どもたち保護者に万一の事態が発生させることはあってはならないため、検温やマスク着用の徹底等を行い、感染症対策を万全に行いました。講師は、当機構の副理事長で東京大学准教授の知花先生（当機構副理事長）と気象予報士の宇野日和さんが勤めました。多摩川の洪水のお話を知花先生から行いました。近々に熱海市での土砂災害が発生していたことで丘陵地の川崎市多摩区での開催を念頭に土地の形状や土砂災害への備えについても知花副理事長より講義を行いました。昨年に続き、少人数としたことで参加者と講師とのコミュニケーションもしっかりと取れ、親子で皆さん楽しくしっかり学ぶことができました。アンケート結果でも楽しく学習が出来たという回答がほとんどでした。（会員 8 名、参加者 22 名（保護者 9 人含む））

３．４．４　「親子こうざ　ぼうさいマイ・タイムライン」講習会の開催（2021 年 10 月 24 日）

本活動は、前年好評だったことから（一社）二子玉川エリアネジメンツと共催で夏休みの 8 月 21 日に夏休み講座として実施を予定しておりました。しかしながら、コロナ禍での東京都における緊急事態宣言の発令を鑑み 10 月 24 日（日）に開催日を変更して実施することとしました。

東京都市大学二子玉川夢キャンパスにおきまして、事前申や込みされた親子連れや学生の他、東京都市大学の学生など約 20 名が参加しました。今回の親子こうざでは、東京 MX テレビで気象キャスターを担当する気象予報士・防災士の敷波美保さんによる観天望気（天気の予測）の作成講座、会場となった東京都市大学の横田先生による立体マップを使い、降った雨が流れていく先について考えるお話を伺いました。また、ハザードマップなどの防災情報の講義のあと、水害時に自分の逃げ方を自分で決める、「マイ・タイムライン」のお話を河川情報センターの鮎川さんからご指導いただき、洪水が来る前に避難を完了させることの大切さを学習しました。

今回の親子こうざを通して、気象から降った雨の流れ、地域の災害リスクを知ることの大切さ、災害に関する情報の取り方、いざという時どのタイミングで逃げるかを前もって確認しておくことの重要性を、参加された親子や学生など幅広い世代の方に理解していただくことが出来たのではと考えます。（会員 5 名、参加者 12 名）

（別添）新聞記事（神奈川新聞（令和 3 年 6 月 20 日））

様式１１

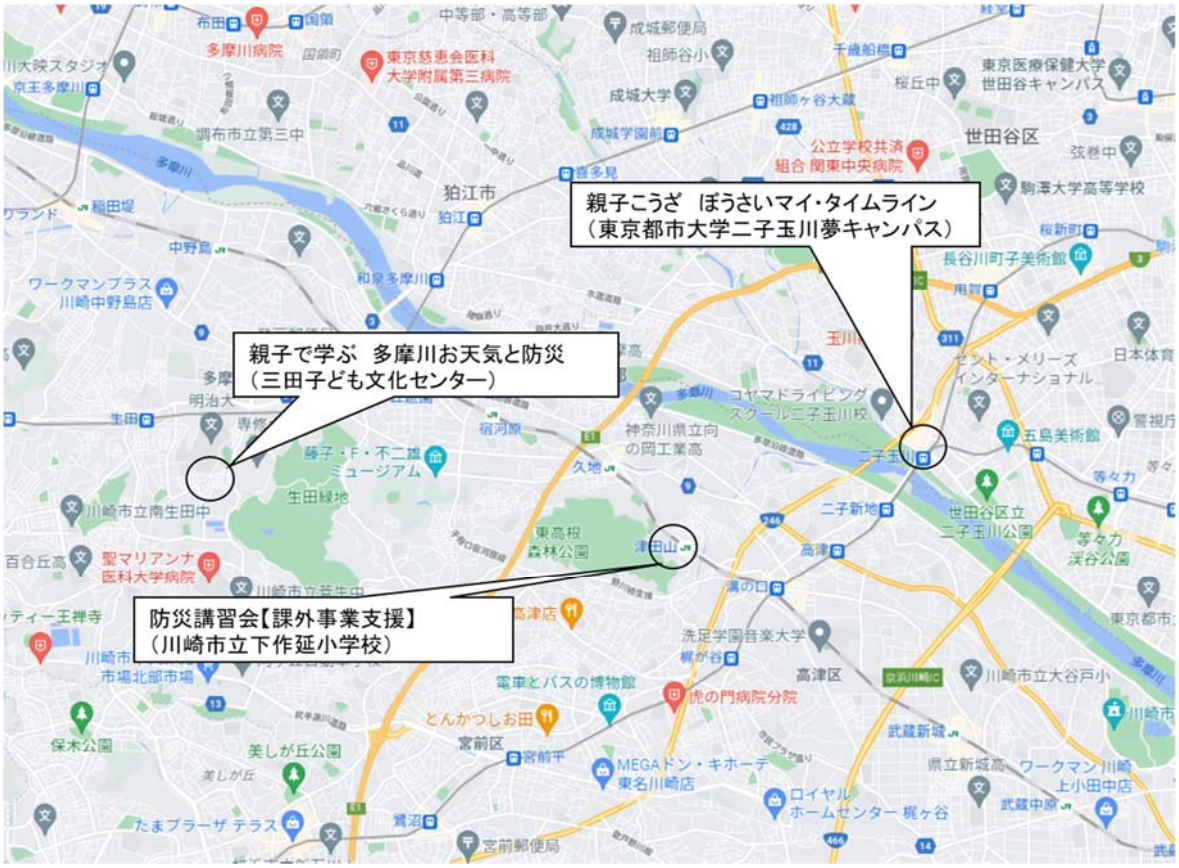
3.川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2021-6322-013	2020 東京に向けた水防災啓発プロジェクト　～多摩川から世界へ	特定非営利活動法人水・防災機構　理事長　鈴木眞智子

	主な実施箇所	神奈川県川崎市、東京都世田谷区（５年目事業のみ）

助成事業の主な実施箇所



河川基金ロゴ等表示状況写真

遠景	近景
会場におけるロゴ表示状況（遠景）	作成したチラシにおけるロゴ表示状況（近景）

延べ参加人数	一般	１２２名	スタッフ・事務局	２１名
マスコミの反響	神奈川新聞（令和 3 年 6 月 20 日）に取り組みの紹介がありました。（別添参考）			